作文タイトル　情けは人の為ならず　1 枚目

フリガナ　リュウ レイイ

氏名　劉 霊怡　学年　2 年

※提出するすべての原稿に記入ください。

　福岡で80歳の女性が運転する車が営業中のディスカウントストアに突っ込み、けが人が何人も出たというニュースをテレビで見た。日本では80歳のおばあさんが車の運転をするのか。ちょっとびっくりした。でも、日本に留学して以来、似たようなニュースを何度も見たり聞いたりした。

　お年寄りが車を運転する理由を考えた。日本は一人暮らしをする高齢者が増えている。頼る人もなく体力も落ちているのに、買物は自分しかいない。買物弱者の高齢者は過疎地域ではもっと深刻だろう。

　日本では高齢者の移動のために赤字の交通機関でも路線を残していると聞いた。また、一人暮らしの年金生活者のことを考えた品揃えのスーパー、ディスカウントストアも増えている。この動きは社会的弱者である高齢者を補助することで社会の持続性を保つことになっているかもしれない。しかし、一方的に助けることだけがいいとは限らない。

作文タイトル　情けは人の為ならず　2 枚目

フリガナ　リュウ レイイ

氏名　劉 霊怡　学年　2 年

※提出するすべての原稿に記入ください。

考えるべきことは高齢者も社会の一員だということだ。高齢者以外の世代が高齢者の生活に入り、高齢者も他の世代の生活に入り込む。そのための福祉アプリを考えた。アプリを通して各世代と連携すればもっと高齢者を連れ出すことができるかもしれない。

私の国では、今、いつでもどこでもネットで「タクシー」予約できる「ディディチューシン」というスマートフォンアプリが人気を集めている。アプリに登録しているのはタクシー会社の運転手ではなく審査に合格し、資格の持ったドライバーだ。タクシーと比べて料金は安く車の種類も様々だ。ドライバーと乗客の間に長期間のパートナーシップを結べることも人気の理由だ。他にも「美団」というデリバリーアプリ、中国語で「使い走り」という意味の配達業者が利用者の代わりに買物をしてくれるアプリもある。

このようなアプリを参考にした福祉サービスアプリが考えられないだろうか。例えば、

作文タイトル　情けは人の為ならず　3 枚目

フリガナ　リュウ レイイ

氏名　劉 霊怡　学年 2 年

※提出するすべての原稿に記入ください。

高齢者が車を必要とする時、アプリでドライバーに連絡する。目的地到着後に高齢者向け特別料金をキャッシュレスでドライバーに支払う。ドライバーは代金を直接もらうか、代金の一部を車の維持費として受け取り、残りの分を「福祉ポイント」として貯めるという選択システムにする。

「福祉ポイント」とは自分が高齢になる前、働ける間に貯める。退職後、電子マネーとして使う。高齢者を支えるビジネスモデルが高齢者になった自分を将来助ける。このシステムなら高齢者と高齢者以外の世代が今も未来も満足して生活できる、持続可能な社会のために貢献できるのではないか。

良い点はまだある。ドライバーの仕事だけでポイントを稼ぐのではない。様々な有料サービスが考えられる。例えば「買物を助けてくれる人がいない」解決策としてアプリができることは「地域住民パシリ」である。（この機能名は後でもっと良い名前に変えてほし

作文タイトル　情けは人の為ならず　4 枚目

フリガナ　リュウ レイイ

氏名　劉 霊怡　学年　2 年

※提出するすべての原稿に記入ください。

い。）これは身体に障害があり、生活必需品の購入が難しい高齢者に代わって、近くの住民が買物して届けるというものだ。高齢者は欲しいものリストを好きな時間にアップロードしておく。そして、近所で買物に出かける予定だった育児休暇中のパパやママが、このショッピングリクエストを見かける。「出かけるんだし、だったらついでに。」という気持ちで、リスト内の物を買って高齢者の自宅まで届ける。利用者からもらった手数料は現金でもらってもいいし、未来の福祉ポイントとして貯めてもいい。

「情けは人の為ならず」という諺が日本にある。同情したり、親切にしたりすることは、他人のためだけなく、いつか自分に返ってくる。だから誰にでも親切にしなさい。」という意味だ。しかし、現在この諺の意味は歪んでしまっている。日本には引越し先の人に「引越しそば」を配る習慣がある。この習慣を行う日本人も少なくなっていると聞いた。私の

作文タイトル　情けは人の為ならず　5 枚目

フリガナ　リュウ レイイ

氏名　劉 霊怡　学年 2 年

※提出するすべての原稿に記入ください。

国も日本も同じで都市化が進むとともに、他の人を思い遣る心や周りの人に自分を知ってもらうことなど忘れられてしまった。人間は一人では生きられないのに。人が互いに助け合うからこそ、人間社会は成り立つ。

スマートフォンアプリを高齢者がうまく使えるわけがないとか、お年寄りを支えるシステムの名の下にポイントだのサービス料金だの利益やお金の話を入れて嫌な気分だとか言う人もいるだろう。しかし、教えたり、教えられたり、払ったり、受けとったり、これはすなわち社会の中のコミュニケーション。世代間のコミュニケーションになるのだ。

このアプリを通して、見えない未来の自分を助け、将来に備えながら人情や達成感を味わってもらいたい。日本のすばらしい諺「情けは人の為ならず」の本来の意味を心で感じることが様々な世代が共に暮らす社会には必要なのではないだろうか。